

2008.9.4 第1号

発行 もみじ台地域小規模校検討委員会

もみじ台地域小規模校検討委員会では、もみじ台地域の学校規模の適正化を進めるための諸課題について具体的な方策を検討していきます。

今回は7月24日に開催された第1回検討委員会についてお知らせいたします。

もみじ台地域 小規模校検討委員会ニュース

第1回検討委員会における説明、検討内容

平成20年7月24日午前10時より、みずほ小学校にて開催された第1回検討委員会では、以下の事項についての説明や検討が行われました。

検討委員会ニュースについて

小規模校検討委員会ニュース【準備号】は各学校から家庭に配布するとともに、町内会の協力を得て地域にお住まいの方々へ回覧していただきました。

また、まちづくりセンターや児童会館を始め、地域の幼稚園、保育園などにも備え置いていただくようお願いしています。



学校規模の適正化の考え方について

市内の小中学校では、少子化の影響や住宅地の人口構成が変化してきたことにより、12学級未満の小規模な学校も年々増えてきています。

学校の小規模化は、クラス替えができないなど望ましい教育効果が得られないといった課題を伴うことから、子どもたちに良好な教育環境を整備するには、望ましい学校規模が確保されるように、学校規模の適正化を進めていく必要があります。札幌市教育委員会では昨年12月に基本となる考え方と具体的な検討地域を定めました。

小学校における適正な学校規模

**18学級から24学級（1学年3～4学級）が適正規模
少なくとも12学級（1学年2学級）以上の規模が必要**

具体的に学校規模の適正化を進めていくには、できるだけ徒歩で通える範囲で通学の利便性や安全性などを十分に考慮したうえで、学校の統合などを行ない、その際には既存の学校施設を可能な限り有効活用するのが基本です。

もみじ台地域の学校の現状と課題

平成20年では、もみじ台小が9学級(特別支援学級を除く。以下同じ)、みずほ小が7学級、もみじ台南小が10学級、もみじ台西小が14学級となっており、もみじ台西小を除いた3校が12学級を下回っています。

今後の推計値をみると、各学校とも今後5年間で児童数がさらに減少していく見込みです。

平成23年度にはもみじ台小とみずほ小、もみじ台南小の3校とも、どの学年でもクラス替えのできない6学級規模の学校になることが見込まれ、現在14学級あるもみじ台西小でも平成25年には10学級まで小規模化する見込みです。

また、1学校あたりの教職員数は、北海道の基準によって定められており、学校規模に応じて配置されます。学校が小規模化すると教員の数は少なくなってきたり、学校運営にかかる1人当たりの教員の負担が増えてくるなどさまざまな課題が発生してくる場合があります。

表1 もみじ台小学校の学級数見込み(児童数見込み)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
6年生	2 (52)	2 (41)	2 (44)	1 (28)	1 (35)	1 (34)
5年生	2 (44)	2 (45)	1 (29)	1 (36)	1 (35)	1 (30)
4年生	2 (45)	1 (30)	1 (37)	1 (36)	1 (31)	1 (25)
3年生	1 (28)	1 (38)	1 (37)	1 (32)	1 (26)	1 (23)
2年生	1 (34)	1 (38)	1 (33)	1 (27)	1 (24)	1 (23)
1年生	1 (33)	1 (34)	1 (28)	1 (25)	1 (24)	1 (16)
合計	9 (236)	8 (226)	7 (208)	6 (184)	6 (175)	6 (151)

表2 みずほ小学校の学級数見込み(児童数見込み)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
6年生	2 (42)	1 (34)	1 (28)	1 (28)	1 (33)	1 (30)
5年生	1 (34)	1 (29)	1 (29)	1 (34)	1 (31)	1 (35)
4年生	1 (27)	1 (30)	1 (35)	1 (32)	1 (36)	1 (38)
3年生	1 (29)	1 (36)	1 (33)	1 (37)	1 (39)	1 (37)
2年生	1 (35)	1 (34)	1 (38)	1 (40)	1 (38)	1 (30)
1年生	1 (31)	1 (39)	2 (41)	1 (39)	1 (31)	1 (17)
合計	7 (198)	6 (202)	7 (204)	6 (210)	6 (208)	6 (187)

表3 もみじ台南小学校の学級数見込み(児童数見込み)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
6年生	2 (46)	2 (41)	2 (41)	1 (33)	1 (37)	1 (30)
5年生	2 (42)	2 (42)	1 (34)	1 (38)	1 (31)	1 (24)
4年生	2 (46)	1 (35)	1 (39)	1 (32)	1 (25)	1 (27)
3年生	1 (36)	1 (40)	1 (33)	1 (26)	1 (28)	1 (29)
2年生	2 (41)	1 (34)	1 (27)	1 (29)	1 (30)	1 (22)
1年生	1 (34)	1 (28)	1 (30)	1 (31)	1 (23)	1 (22)
合計	10 (245)	8 (220)	7 (204)	6 (189)	6 (174)	6 (154)

表4 もみじ台西小学校の学級数見込み(児童数見込み)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
6年生	2 (71)	2 (68)	3 (84)	2 (73)	2 (59)	2 (65)
5年生	2 (66)	3 (85)	2 (74)	2 (60)	2 (66)	2 (54)
4年生	3 (83)	2 (75)	2 (61)	2 (67)	2 (55)	2 (53)
3年生	2 (76)	2 (62)	2 (68)	2 (56)	2 (54)	1 (40)
2年生	2 (64)	2 (69)	2 (57)	2 (55)	2 (41)	2 (45)
1年生	3 (73)	2 (58)	2 (56)	2 (42)	2 (46)	1 (37)
合計	14 (433)	13 (417)	13 (400)	12 (353)	12 (321)	10 (294)

注)平成20年度のみ実数で以降は平成19年度作成推計値、特別支援学級を除く。

各校長からの意見～小規模校における現状と課題について 教育面

効果的なクラス替えができないため、生活面において人間関係が固定し、友人が増えないなど自己形成に必要な集団生活が十分にできない。小規模校では、全校的な活動や縦割り活動等の指導が行いやすいといったよさはある。また、教育的配慮を要する子どもにも教員全員で支援ができるといったよさもあるが、課題も多い。

子どもたちは、大勢の集団の中で切磋琢磨しながら成長するので、クラス替えができる規模の学校が、教育活動の面から望ましい。

人間関係にひびが入った場合、学校側が改善の努力をしても、クラス替えがないと6年間ずっとそのままの可能性もある。

複数の学級があると、球技大会や学年行事の際、学級ごとの切磋琢磨があり、子どもたちや教員のモチベーションが上がる。

委員会活動やクラブ活動などの種類も少なく、子どもたちの選択肢が限定される。

複数学級になれば、習熟度別や課題別にグループを分けて少人数指導が可能になる。子どもたちのために、より多くの教員できめ細かな指導ができるように単学級より複数学級の方がいい。

子どもたちの人数が少ないと、子ども同士の出会いも少なく、また、教員の数も少なくなるため、子どもたちと教員との出会いも少なくなる。

適正規模であれば、多くの教員が子どもたちを複数の視点から見ることにより、子どもたちの違ったよさを発見できる。

学校運営面

児童数が減れば必然的に職員数は減少する。学校ではさまざまな行事があるが、学校の規模に関わりなく種類は同じなので、職員数が減れば減るほど個々の負担が増え、子どもたちと触れ合う時間が少なくなる。

小規模校では、教員同士が指導面で相談することや教科研究が十分にできない。適正規模の学校では、教員数も増え、その中でさらに磨きをかけて指導力を発揮することや、同じ学年同士やベテランのエキスパートに相談するなどして成果を上げることができる。

現在では、子どもたちのための新しい制度や施策が次々と出てくるが、十分な教員数がないとそれらに対応しきれないという実態がある。

都心部4校の統合前にはさまざまな心配があったが、子どもたちは統合後の資生館小にすぐに馴染んで、その後のアンケートでも統合してよかったという回答がほとんどであった。保護者からも、心配するほどのことはなかったとの声が多かった。

各委員から寄せられた意見

子どもたちには、できるだけ早く複数のクラスのある学校に通わせてあげたい。1学年1クラスをとにかく解消したい。

もみじ台地域全体をひとつの地域として捉えて、今から可能な範囲で学校間の交流を進めていった方が良い。

事前に学校間の交流の機会があると、子どもたちの不安や精神的な負担を軽減できるのではないかな。

子どもたちや職員の数を少しでも多くして、より教育活動を充実できるように、現在の小規模校が抱える課題を少しでも改善することを一番の目的とし、統合再編の方策を考えていきたい。

子どもたちにとってどういう方法が一番いいのかというのを基本に、色々な意見を出し合って考えていかなければならない。これからのもみじ台の子どもたちのために、今のうちにできるだけのことをしておくのが自分たちの役目だと思う。

第1回検討委員会での決定・確認事項

- 小規模校の課題を解消するため、まずは再編計画案の検討からスタートする。他の検討すべき事項については、協議しながら順次決定していく。
- 意見書を取りまとめる期限を決めるのは難しいが、子どもたちのためにもできるだけスピード感を持って検討を進める。
- この検討委員会では、もみじ台地域の小学校の課題解決のみを検討対象とする。

第2回検討委員会について

次回の第2回検討委員会（9月下旬開催予定）では、今後の児童数や通学距離などを考えて4校の再編計画案を検討する予定です。

もみじ台地域小規模校検討委員会事務局
札幌市教育委員会 総務部計画課（配置計画担当）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル5F
TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837
E-Mail haichikeikaku@city.sapporo.jp
この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載を行う予定です。
http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo_kentou.html

もみじ台地域小規模校検討委員会では、もみじ台地域の皆様からのご意見をお待ちしております。ご意見については、メール、FAX等で事務局宛にお送りください。